



有限会社さいとう工房にて、途上国における障害者の社会参加促進にスポーツを活用した事例を学びました



課題別研修 スポーツを通じた障害者の社会参加の促進

2019年～2021年

スポーツは、障害者に対する偏見や差別の払拭に貢献します。また、スポーツを通じて障害者自身が自分の能力に対する自信や自尊心を強めることで障害者の自立を促進します。

本研修は、障害者のエンパワメントや障害者と非障害者の交流を通じた障害者の社会参加を進めるツールである障害者スポーツに注目し、施設、道具なども含め途上国の状況や障害分類に適した工夫等も含めた障害者スポーツに関する研修を行うものです。研修員は約1か月間日本に滞在し、日本における障害者スポーツの歴史、概要などを学びました。また、実践的な技術として、フライングディスク、ボッチャといった様々なスポーツを実際に体験し、学んだ知識や技能を自国での障害者スポーツの普及に活用します。なお、研修中に岩手県久慈市にて卓球バレーの大会にJICA研修員チームとして参加を予定しており、研修員の参加により国際大会となることから、久慈市の地域活性化に繋がっています。

～活動や目指す成果～

障害者スポーツの役割の認識

研修員が障害者のエンパワメントや障害者と非障害者の交流を通じた障害者の社会参加を進めるツールとしての障害者スポーツの役割及び重要性を説明できるようになります。

障害者スポーツ関連知識の取得

研修員が各種障害者スポーツのルール、指導法、指導員育成、教材開発、広報のあり方等に関する知識・技術を身に着けます。

障害者スポーツ普及に向けた活動計画の作成

研修員が自国での障害者スポーツの適用可能性を検討し、帰国後の活動計画を作成します。

障害者スポーツへの理解の浸透

研修員が途上国における実践を題材に、障害者スポーツの実施や普及・啓発に関する知見を共有し、自国への適用のために必要なアイデアを得ます。